

第2回御幸森小学校 学校跡地検討会議 開催概要

1 開催日時

令和元年 12 月 12 日（木）18 時 30 分～20 時 30 分

2 開催場所

御幸森小学校 多目的室

3 出席者

- ・委員：足立委員、安委員、井上委員、任委員、熊谷委員、新藤委員、宋委員、高田委員、中尾委員、本多委員、森本委員、安田委員
- ・区役所：山口区長、櫻井副区長、杉本まちづくり推進担当課長、大川地域活性化担当課長、井平安心まちづくり担当課長、松野地域活性化担当課長代理、川楠地域活性化担当課長代理、竹中担当係長、澤見係員
- ・(株)セミコロン：林氏、藤野氏

4 会議内容

(1) 区長挨拶

(2) 検討会議資料説明

- ・「みんなの学校会議」、「参画エントリー会議」開催概要
- ・学校跡地検討会議の位置づけ
- ・学校跡地検討会議スケジュール（予定）、今後の検討内容
- ・用途指定部分の考え方
- ・活用内容に関する意見
- ・活用コンセプトについて
- ・活用提案の枠組みイメージ
- ・運営スキームについて
- ・費用負担について

(3) 意見交換

- ・活用に関して「多文化共生」の理念は募集要件として入るのか。
⇒そのような意見があれば入れていくことになる。
- ・校舎を運営するのにどれくらいのコストがかかるのか。そのコスト感も踏まえ
どういう事業者が可能なのかのイメージがつかないので早急に整理いただきたい。
- ・コンセプトについては地域住民のための活用が肝心である。
- ・地域活動で施設を使用する場合の使用料は無料としてほしい。

- 地域活動を無料にする場合、地域の活動に関わることを条件にした上で無料にしたほうが良いと思う。
- 跡地は活用するが、御幸森小学校があったということを何かしらの形で残していけたらと思う。(モニュメント等)
- 「日本人、在日コリアン、ニューカマーの外国人」といった人達、「子育て、学び、福祉、介護」といった異なる分野をブリッジできるようなあり方をどのように跡地を活用して実現できるのか。その際「市民、行政、民間」はどのような形でブリッジできるのか。跡地を活用していく上で重要なことだと考えている。
- 多文化共生のコンセプトは広い意味で考えた方が良いのではないかと思う。多文化共生というものは、在日コリアンと日本人とニューカマーの共生だけではなく、もっと広く、例えば高齢者や地域の人同士の共生なども含むなど。マイノリティこそがマジョリティであり、皆それぞれが色々な側面を持っているので、それを包み込むような概念で示せるといいと考える。
- ダイバーシティではなく、インクルーシブというイメージ。みんなで一緒にやっていくという包括的なやわらかいイメージ。あなたはあなたでいいというメッセージが共生で意味したいことである。
- 地域活動の継続について、地域活動の範囲やルールを確認しておいた方が良い。「今ある地域活動」と「これから出てくる地域活動」のあり方も整理しておいた方が良い。
⇒「今ある地域活動」で継続の意向があるものについては、基本的に継続することを想定している。「これから出てくる地域活動」は検討が必要だが、今までとこれからの活動に対する対応は明確に分けて考える必要がある。
- 地域のことを考え地域を活性化しようとする事業者を選定すべきで、事業者の事業を地域の人が利用して地域が活性化すれば、双方にいい影響がある win-win の関係でいられる。地域が活性化されるような事業者に入っていただきたい。
- 野球ができる場所が地域に少ない。子どもたちが野球など活動を継続できるようにするべきだと思う。
- 学校体育施設開放事業については、活用後も今までどおり利用できる体制を維持していただきたいと思うが、事業者の活用を制限することにより応募事業者が減ってしまうのも避けたい。あり方について色々な選択肢を考えながら、決めていく必要があると考えている。